第３学年　国語科学習指導案

《研究主題》

生き生きした活動を通して、言語能力を伸ばす指導～文章を理解し、批評しよう～

１　単元（題材）名

「時短！ 文章の理解と批評チャレンジ!!」（国語３「温かいスープ」他　光村図書）

２　単元（題材）の目標

（１）知識及び技能

（２）ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深める。

（２）思考力，判断力，表現力等

（１）ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫する。【Ｂ 書くこと 】

（３）学びに向かう力，人間性等

・正確な読み取りによる理解をもとに、推敲や仲間との議論を通して、効果的な文章（批評文）を書こうとしている。

３　単元の評価規準

（１）知識・技能

・「読むこと」について、筆者の考えと根拠が適切かどうかを検討している。

（２）思考・判断・表現等

・「書くこと」について、自分の考えを適切に表すために必要な資料を探したり、言い回しを調べたりしている。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・課題解決のために効果的な方法を探したり、仲間と話し合ったりする。

４　単元の指導計画（全１２時間）

（１）単元の構想

・生徒は概して学習に苦手意識があり、身に付けるまで粘り強く取り組むことが不得手である。自分の思いや考えはあるが、表現することが不得手である。

・事実や根拠を客観的に把握し、思いを伝える力をつけさせたいと考えている。そのために説明的文章の学習を通して重要文・語句の抽出と要約の知識・技能の習熟を段階的に見つけられるよう図った。

・苦手意識や粘り強さに欠ける弱点を持つ生徒（でなくとも）であるほど、要領よく用件を済ませる工夫が必要である。そこで①必要なことは３ワード以内の短い語句で表すこと、②苦手だと思っていることも簡単な作業に集約できること、③実演と演習で体験させること、④特別な活動や教材学習環境がなくてもできるということを伝える工夫をする。

（２）指導計画

第１次「知識及び技能」の習得（４時間）

①筆者の主張をとらえる。「序結読み」を用いる。「作られた『物語』を超えて」で行う。
※序結読みの説明にサンドイッチを例にする。２年生既習教材「モアイは語る～地球の未来」でやってみせる。

②抜き出しと取捨選択の演習をする。「作られた『物語』を超えて」で行う。

③要約を演習する。事前学習として「おくのほそ道」で教習しておく。「作られた『物語』を超えて」を用いて行う。

第２次「思考力，判断力，表現力等」特に「書く」（全６時間）

④筆者の根拠を読み取る。本論を要約して根拠を読み取る。「作られた…」で行う。
⑤根拠の有効性を吟味する。有効性ある根拠を書く演習をする。※光村の国語のワーク３から p28 アドバンス模範解答の構成を知り、オリジナリティある根拠部分を書く。
⑥批評とは何かを知る。「批評の言葉をためる」（～R2 光村図書「国語３」p73~）
⑦根拠をあげて批評する。「観点を立てて分析する」（～R2 光村図書「国語３」p173~）
ほか「ダイコンは…」「ちょっと…」「シカの…」「モアイは…」「君は…」などワークの「構成まとめ」を利用して既習の説明的文章教材について根拠の適正を吟味する。
⑧筆者の主張をつかみ、根拠を読み取る。序結読みと要約を用いて「温かいスープ」で行う。
⑨主張に対する根拠の妥当性について批評を行う。批評の骨子を学習プリントにまとめる。（１時間　本時１０／１２）

第３次「思考力，判断力，表現力等」特に「書く」（全６時間）
⑩批評文を完成させる。p132「批評するときの言葉」p284「見方や考え方を表す言葉」ほかに既習の説明的文章では、どのような言い回しや文末の表現を用いているかを調べる。タブレットを用いて関連事項を調べてもよい、とする。
⑪小論文の書き方、言い回し、語彙の習得をする。P172「情報を読み取って文章を書こう」

５　本時の計画（10 時間/12 時間）

（１）本時の構想

①題材と生徒

・本時の「温かいスープ」は随筆であり、説明的文章（筆者の主題に対する解を、読み手に客観的な手法で伝えようとする）的性質と個人の主観的な思いを綴り、共感を得ようとする性質を持つ。
・個人的な主観を根拠として著述する教材をテキストとし、主観的な思いを客観的に伝える表現を学ぶにはふさわしい教材である。

②指導の構想

・既習事項を活用すれば問題解決できる課題を提示する。
・初見の資料ではなく、既習の資料を用意しておく。
・仲間と議論するなど話し合い活動が柔軟にできるように配慮する。
・小さなつぶやきや気づきを共有できるように工夫する。

（２）本時のねらい

・書くことについて、「温かいスープ」の批評を通して、適切な言葉と言い回しを用い、自分の考えを伝えられるようになる。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■評価・〇留意点
【導入】(5 分) １本時の学習活動を確認する。	今日の授業 「温かいスープ」の批評をしよう。 １ 主題に対する根拠の吟味、立場の決定 ２ 自分の立場から批評の作戦会議 Ｓ 本時の学習活動を理解する。 T1 「筆者の主題の根拠となる根拠（説明材料）は共感できるものでしたか。」 S1 前時のプリントを見返す。 T2 「賛成ですか反対ですか？」 S2 近くの仲間と相談するなどして立場を決める。 T3 「挙手で教えてください。」 S3 傾向や仲間を知る。	〇安心させる。
【展開】(35 分)	T4 「決め手は文章のどこですか？線を引いたり囲ん	〇必要なら学習ペア

2 筆者の主張と根拠に対する立場を決める。 3 自分の立場の根拠を探す。(4分) 4 読み取ったことを基にプリントに記入する。　(4分) 5 話し合い活動で課題解決を進める。　(10分) 6 序結書きプリントを基に文として整え始める。	だりしてください。」 S4 もう一度読み直し、線引きなど書き込みをする。 T5 「自分が気になった部分について、効果や逆効果、気になることを考えてください。」 S5 近くの仲間とそわそわ話したそうにする。 T6 学習プリント配布。「学習プリントに自分の立場を記入してください。」「立場の理由を、根拠の部分に書いてください。」 S6「えっと、抜き出せばいいの？」 T7「筆者の書いたことに対して自分の考えを書きます。」 **学習課題** 批評文を書くにはどのような説明が効果を上げるだろうか。 S7 自力で書き込む。自力で書けない。 T8「まずはどこを根拠にしたか、班の人と確かめてください。班長お願いします。最初は何ケ所引いたか聞いてください。どこに引いたか聞いてください。多く線が重なったところに絞り、なぜ引いたかを聞いてください。」 S8「2」「少なくない？」「5」「多すぎじゃない？」 S8「された親切が書いてあるところ全部」「母子の態度振る舞いのところ」「下宿を断られたのに反省してないよね」「最後の二文、ここしかないでしょ。」 T9 「同じ立場の人と話したり、違う立場の人とも話したりして考えを深める時間をとります。」 S9 「どこに線引いた？」話し合いを始める。 「なんで賛成なの？　反対なの？」「だって…」 「これって個人的な考えに過ぎないよね？」 「もし逆の体験してたらこの考えになったかな？」 「社会情勢とか相手の文化に基づいていないよね」 T10 机間指導し、活動が停滞している生徒にはグルーピングを促したり言葉を補ったりして支援する。 T11 自力で取り組む生徒の考えや話し合いが進んでいる生徒の考えを板書で紹介し、学級でシェアリングする。（立場で分けて板書提示する） S11「あぁそれ、それ」板書を参考にする。重要語句、情報を選ぶ。プリントに根拠として記入する。 T12 記述がすんでいる生徒の学習プリントを提示する。 「自分が考えたことをみんなに伝えて、「なるほど」と感心させたり、「こんなふうに言いたかった」とガッツポーズを作れるようになったりするにはどうすればよいだろうか。」 T13 生徒の記述を基に黒板で実作してみる。 **まとめ** 考えを伝えるには、①客観的で魅力的な材料を用意し、②順番を考え、③相手に伝わる文体や言葉遣いに気をつける。 T14「要約のやり方と同じですね。」 S14「あっホントだ」 S15 自分の学習プリントの修正をやり始める。	リングを施す。 ○課題解決の手順が具体化できない生徒がいたら、前時のまとめを板書する。 根拠は本論から ○板書していると活動しないで終える生徒がいるので、タブレットで画像として記録し、後で丁寧にノートにまとめるように伝える ○班の隊形を作る。 ○スタートできないようなら具体的な指示を出す。「班長は最後」、「時計回り」等 ○班員以外の仲間とも考えを交流する。 ○抜き出しを書く活動と勘違いする生徒を救う。 ○書ける生徒がいたら数分待つ。 ○話し合い活動ではマスク着用と換気、時間に注意する。 ■仲間との検討は的を射ているか。(観察) A 批評文の完成度向上に貢献している。 B 批評の完成に関わる話し合いになっている。 C 問題解決とは関係ない会話や活動に終始している。 ※AC、目立つ生徒を記録→【学びに…】 ○ロイロで学習プリントを画像で提示できるよう

	S16 ノートに書き始める。タブレットで画像保存する。	にする。 ○以前配布した1～3年生説明的文章教材プリントとワーク説明的文章の構成図を参考にしてもよい。 ○まとめを参考に自分の批評を改良して良い。
【終末】（10分） ７振り返り ８次の学習活動への予告をし、この学習の意義を確認し、次の学習への見通しをもつ。 →「情報を読み取って文章を書こう」 (P172「国語３」)	１）時間内に批評できましたか？ ２）今までの学習事項を生かして、良いものに仕上げられましたか？ ３）活動は効果的でしたか？ ４）授業を通して「分かった！」「できた！」や「次に」を書いてください。 S17 学習プリント裏の「振り返りシート」に記入する S18 次時の予習がてら P172 を開く生徒が出てくる。 T15「清書は次時ノートに縦書きで行います。」 T16 評価の境界に位置する記述について、国語担当者同士ですりあわせして評価を行う。 T16 清書には添削を行う。「B」評価をAに、「C」評価の生徒を「B」になるようにする。	■書くことについて、批評（結論の是非、説得力、効果の検証）することを通して根拠を挙げ、適切な言葉で自分の考えを伝えられるようになる。 （学習プリント） （ノート清書） A既習事項に即した記述があり、整った文になっている。 B既習事項に即してプリントに書いていると認められる。 C既習事項が生かされていると認められない。 ※AC、目立つ生徒を記録→【知・技】 【思・判・表】

（４）本時の評価

書くことについて、批評（結論の是非、説得力、効果の検証）することを通して根拠を挙げ、適切な言葉で自分の考えを伝えられるようになる。　【知識・技能】【思考・判断・表現】